

有機農家・栃木県農民連 会長 國母克行さんを訪問

野菜ボックス・産直米に有機農産物を供給

7月13日、栃木県真岡市内で有機農業に取り組む國母克行さん（栃木県農民連会長）の圃場を視察し、取り組みを聞かせていただきました。

農薬の危険性を知り、有機農業へ

國母さんは兼業で農業をされてきましたが、2012年に会社を退職後、本格的に農業に取り組みました。かつての通勤経路にあった民間稲作研究所のシンポジウムを受講し、ネオニコチノイド農薬の危険性、特に子供たちへの影響の大きさを知りました。それを機に、食の安全に関する講演会に参加したり、本を読み漁ったそうです。農薬、化学肥料、家畜に使われる抗生物質、遺伝子組み換え農産物の影響を知りました。

その後、民間稲作研究所の稲葉光圀さんに出会い、稲、麦、大豆・菜種の輪作の重要性を知りました。その結果、農薬、除草剤、化学肥料は全く使わず、農業に取り組んでいます。

ロシアのウクライナ侵攻をはじめ、世界情勢が不安定となり、肥料、資材不足と高騰、食料危機まで心配されていますが、その影響を受けにくい農法だと実感しています。

孫が野菜をモリモリ食べてくれる

主要な農産物は、米、麦、大豆と菜種、ソバ、野菜各種を作っています。これだけで食料がほぼ自給できます。農産物は直売を中心に、大豆などは味噌づくりのグループにも販売しています。

ご飯をあまり食べなかった孫が食べてくれるようになりました。スーパーで買った野菜は食べてくれないが、こくぼ農園の野菜はモリモリ食べてくれることが励みになっています。子供は味覚が鋭いです。



マリーゴールドを植え、害虫忌避に役立ちます。畑の様々な工夫で害虫や病気を減らしています。

野菜ボックスや産直米に有機農産物お届け

栃木産直センターと新婦人の産直米は、國母さんが生産する有機玄米の供給が2019年から始まっています。その後、新たに有機米生産者を農民連会員に迎えたことで、有機白米の産直も始まりました。有機米産直は今も着実に増え続けています。

さらに今年の4月からは、月1回ですが、有機野菜ボックスの供給がはじまりました。これまで新婦人の皆さんは、國母さんの圃場見学や草取りの援農など何度も交流を続けてきました。「若いお母さんたちから有機野菜ボックスを」との要望があることは聞いていましたが、供給できる生産体制が整っていませんでした。しかし、その後國母さんと交流のある有機農家が産直に参加してくれることになり、有機野菜ボックスの供給が可能になりました。

当初の予定を上回る注文数となりましたが、端境期を乗り越え供給することができています。

有機栽培に取り組む仲間増やしたい

國母さんの栽培される農産物には遺伝子組み換えやゲノム編集作物でないことを証明する「OKシードマーク」を貼り、安全性をアピールしています。

國母さんは、顔の見える信頼関係を維持しながら、有機栽培に取り組む生産者の仲間を増やしていきたいと考えています。福島でも國母さんの取り組みを参考にさせていただき、有機栽培やアグロエコロジーの実践を進めていきます。

汎用乾燥機1台で米、麦、大豆の乾燥に利用しています。

夏蕎麦も収穫後の乾燥中でした。作業が重なるので、この時期は忙しいそうです。



有機米の田んぼを案内いただきました。慣行栽培と有機栽培では一目瞭然と稲姿が違います。少し前まで菜種を収穫し、すぐに田植えをします。小麦収穫した田んぼもありますが、稲の葉色が薄く、小麦後は地力の低下がわかります。



遺伝子組み換え、ゲノム編集作物でないことを証明する「OK シードマーク」を農産物に張り付けています。

農民連フラッシュ flash

稲の成育をみんなで見て、学ぶ

6月～8月にかけ、会員同士の稲の成長を見て確認する、「田まわり会」が各地で行われます。稲の丈や葉の色などを計測して、成育状況や肥料をあげる時期を見極めるなど、稲のことをみんなで学ぶ大切な時です。



桃の共撰所開所式、新たな産直の挑戦へ

7月12日産直センターふくしまの悲願であった共撰所が完成し、理事や生産者が出席し開所式が行われました。高齢化により「物はあるが箱詰めてきない」「働き手がなくJAに出荷するだけで精一杯」という農家の負担を軽減でき、生産者は収穫に集中できるようになります。今年もおいしい桃をお届けします。



福島農民連の電気購入できます！

福島農民連産直農協で発電している電気を「みんな電力」から購入や応援することができます。再生可能エネルギー100%の電気も選択できます。みんなの選択で地球を冷やしましょう。

<https://minden.co.jp/personal/>



二本松発電所